

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2171600352
法人名	特定非営利活動法人 瑠泉会太陽
事業所名	瑞浪グループホーム太陽
訪問調査日	平成 20 年 2 月 13 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 13 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	2171600352
法人名	特定非営利活動法人 瑠泉会太陽
事業所名	瑞浪グループホーム太陽
所在地	岐阜県瑞浪市西小田町4丁目69番地 (電話) 0582 - 66 - 4733
評価機関名	NPO法人旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成20年2月13日

【情報提供票より】19年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 3 月 3 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換4.1 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	24,200 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2		3 名	
要介護3		要介護4		1 名	
要介護5	4 名	要支援2			名
年齢	平均 84,44 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団梅幸会 ときわぎ診療所
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日当たりの良いウッドデッキが特徴の明るい陽射しのホームである。日中は玄関や居室の鍵を掛けず、利用者が自由にウッドデッキに出入り出来、頻繁な家族の訪問がある、開放的な事業所である。運営者が看護師としてあらゆる医療の場に長年携わった経験と知識を活かし、職員を育てている事や看護師を職員として多数配置している事からも医療依存度の高い利用者も安心して生活出来る場所になっている。職員は「自分が介護される立場だったら、どうして欲しいか」を常に考え支援に当たり、利用者の心に寄り添っている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題は無い。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全員で取り組み、その評価を通して良質なサービスの方向やサービスのあり方についての再認識をした事で評価の意義を実感しているが、運営者は評価のあり方や意義について懐疑的である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	本年度は市の担当者、町内の役員、家族等の参加を得て2回開催して、事業所の状態、抱えている問題等を議題とし、前回の外部評価の結果も報告している。運営者は回数を重ねる事より内容の濃い会議を開催する事が良いとの認識である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	家族の訪問は月1回以上あり、訪問時に利用者の状態を報告し、意見を聞いている。運営推進会議での意見もある。重要事項説明書に施設内外の苦情申し立て窓口を記載して苦情、意見が言えるよう門戸を開いている。受けた苦情、意見は納得が得られるまで話し合い、結果は詳細に記入し職員と共有し、ケアに活かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の民生委員、町内会長、保育園児、祭りの神輿などの訪問を受けたり、近隣住民からの野菜の頂き物や声掛けがある。地域の行事の参加案内もあり、防災を含めて地域との交流について検討中である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法令改正を受けて「地域社会と交流するための方針」を作成し、地域社会の中で根付き貢献できるホームを目指すことを運営推進会議で述べている。 施設の開放による地域住民との交流を通じて、ホームの地域での理解を深める働きかけを検討中である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所開設時より三つの理念を持ち、事業所内に掲示して日々確認しながら業務に当たっている。いつも「自分の仕事は何か」を問いかけ、理念に立ち返って利用者の支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の民生委員、町内会長や保育園児の訪問や祭りに神輿が来てくれる等の交流がある。 地域の行事案内があるが、利用者の参加には未だ到っていない。		グループホームも地域の重要な社会資源として位置づけられている。地域の一員としての活動についての検討をお願いしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組んでいる。今回の自己評価を通じて良質なサービスの方向性や、自分のサービスのあり方について再認識が出来たと、評価の意義を職員は実感しているが運営者は評価を行う意義について懐疑的である。		運営者は自己評価、外部評価の意義についての理解を深め、更なるサービスの質の向上をお願いしたい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	19年度においては市の担当者、町内の役員、家族等の参加を得て二回開催されており、事業所の説明、現状、問題点を議題として提案し、参加者の意見も議事録に記載されている。前回の外部評価の結果も報告されている。		形式的に二ヶ月に一回の会議を行うより、意義ある会議をとの考えであるが、会議を重ねるにつれて意見の収集が多くなることや地域の多方面からの参加を促して推進会議の機能向上が図れる事への検討を望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席、市からの依頼で視察を受け入れたり、中学生や高校生のインターンシップを受け入れている。その中で得る意見や感動はサービスの質を考える機会になっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌「太陽会報」を送っている。一ヶ月に一回以上の家族の訪問をお願いし、その時に個々の状況を連絡し、金銭を預かっている利用者の家族にはレシートを渡して確認をお願いしている。、必要時時には電話連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所内外の苦情申し立て窓口を記載している。意見、苦情は詳細に記入し、家族と話し合い解決に向け努力しており、結果はケアプランに記入して職員間で共有し、ケアに活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	多治見市にある関連事業所との交流会、職員研修を通じて利用者との馴染みの関係を構築し、異動等で入居者に不安が生じないようにしている。ミーティングでケアプランの共有、ケアの統一を図り混乱を防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は長年の看護師の経験から適切な指導、助言を行い職員をフォローしており、働きながら学ぶ体制が出来ている。多治見の事業所との交流研修、休日を利用した自己研修等職員の研修意欲は高く、研修内容は共有し、資料も揃っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会合には出ていないが、ケアマネ研修会など交流の機会を通して情報交換し、その時得た他のホームの長所を自分の事業所内で活かす取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居後三ヶ月から半年かけて、利用者を深く理解するように職員を指導し、時間をかけて施設に馴染んで貰うようにしている。</p> <p>環境の変化による不安と負担を軽くする為のコミュニケーションと五感を働かせるケアを心がけている。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は、長い人生を歩いた経験から心の中に多くの引き出しを持ち、折に触れ職員に話す言葉に励まされたり教えられたりして、自分の祖父母と暮らしているような暖かい気持ちになる時がある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>殆どの利用者はきちんと話をすれば理解が出来、それが難しい時は表情やしぐさでコミュニケーションをとって、意向や希望を汲み取るようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月一回のミーティングを行い、家族や関係者の意見を取り入れて介護計画を作成している。「自分だったらどう思うか」を常に頭に置き、利用者寄り添い、その人の抱えている問題、不安などを介護計画に反映させている。家族への説明が行われサインがされている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月一回のミーティングに現状のケアの検討を行い、見直しが必要と思われる利用者については家族、医師とも話し合っ、その都度新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空きがある時に、緊急時の受け入れ、家族の泊まりの対応をしている。 デイに通っている方を、受け入れる事がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度の協力医院の回診を受けている。利用者や家族の希望をする医療機関を受診出来る様に家族と連絡を取り、付き添いをお願いしている。その際には、サマリーを渡すなどして情報交換をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師が常勤している特性を活かし入居時に、重度化した場合や看取りについて家族と話し合っている。協力医療機関との連携の下に、職員全てが出来だけ穏やかにとの思いで終末期の取り組みをしている。		方針を変え、今後の利用者に対する看取り、終末期のケアは行わないとの運営者の思いと、職員との意識の統一が図られる事が必要と思われる。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は「自分がされたら、どう思うか」を常に頭において、利用者に接するようにし、言葉掛けのトーンは優しく、感謝しながら支援を受ける利用者の姿がある。学生のインターンシップ時の個人情報の取り扱いについての誓約書は、学校が用意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間を掛けてホームの流れに馴染んでいるので、利用者はホームのペースを違和感なく受け入れている。食後の口腔洗浄やトイレへの誘導も利用者に優しく声掛けをして、寄り添いながらの支援である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る事を(テーブル拭きや後片付け、おやつ作り)を手伝って貰い食事の用意や片付けをしている。 入居者の状況に合わせての刻み食になっており、ご飯もおかずも柔らかく調理されて食べやすくなっている。季節に応じた献立にし、郷土料理を調理する時もある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、汚染時など必要な時は運営者が入る事で臨時の入浴に対応している。毎日の入浴が希望の利用者にも対応しており、オムツ使用の利用者には毎日陰部洗浄を行っている。入浴を拒否する利用者には職員が機嫌を損なわぬよう話しかけて促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯、食事の後片付けなど、出来る事を把握し手伝いをして貰い「すみません」「ありがとう」の言葉をかけている。 読み、書き、計算、音楽、体操を一週間の予定に入れたり、編み物や生け花の好きな入居者に材料手配の支援をしたり、皆で楽しくおやつ作りをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節、天候を考慮して、散歩や外出の支援をしている。家族の都合に合わせて、病院等への付き添いをお願いしているが入居者にとってそれが楽しみの外出になっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず開放しており、職員は鍵を掛ける弊害を理解し、利用者の姿を常に注意して見守っている。利用者が居室に居る時は、出来るだけドアを開ける様にしている。ウッドデッキへの出入りも自由で洗濯物を干したり取り入れたりする利用者もいる。夜間の洗濯機使用に近所から苦情があり、夜間の洗濯室は施錠している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施について地域の関係者と調整、検討中である。職員に防火管理資格があり、避難経路、消火器、非常用食料の確認を行い、緊急連絡網も作成、掲示されている。地元から勤務の職員も多く緊急時に駆けつける仕組みが出来ている。		いざという時に慌てず避難誘導が出来るよう、消防署との調整を行い、利用者と職員が一緒になった避難訓練をお願いしたい。又地域の協力体制の構築についての検討もお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給には特に気をつけ、熱中症予防に努めている。食事の摂取量も確認し記入している。体重測定をこまめに行って健康管理に務めている。体調の変化には看護師の運営者から適切な指示や指導がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、座り心地のよいソファが置かれており、季節の雛飾りがある華やかである。利用者は自分の好きなテレビの番組を見たりしている。皆が揃って食事が出来るテーブルがあって顔を合わせた食事の風景は家庭的である。浴室は広く介助しやすく、トイレも清潔に保たれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたたんすやテレビが持ち込まれ、写真や手作りの品が飾られた居室は利用者の落ち着ける場所になっている。ベッドはレンタルになっているが使い勝手がよく介助支援がしやすい。		